

編集後記

昨日（十二月十日）の夕方、最終校正が終わった。版下原稿のプリントアウトもすべて終わり、残すはまったくこの編集後記のみである。当初十月末に終わらせるはずの作業が二ヶ月近く延長し、その間、ほぼ毎日法政の専攻室にいたように思える。風邪が流行しているが、私も数ヶ月苦しめられ、今朝も新たに熱がぶり返したばかりである。が、兎に角終わった。当初の予定より発行の大幅に遅れたことを、まず執筆者の方々に御詫びしたい。

予算切り詰めのため、本年からDTPソフトを導入し、版下の段階までは世話人が作製することとなった。しかし、何ぶん初めての試みゆえ、また私自身コンピュータについてまったくの素人であるため、結果的に多大な困難と時間の浪費を余儀なくされることとなった。立候補とはいえない思いがけず世話人を引き受ける事となったが、この世界に入ってきたばかりの私にとっても、この仕事を通じてこの数ヶ月、具体的に学ぶ事が幾つかあった。執筆者の方々には重ねて御詫びと御礼を申し

上げたい。

九十五年度世話人・

「哲学の探求」作製担当 藤田祐一（法政大学）